

新メンバー到着☆

10月23日に長野牧場
< <http://www.nlbc.go.jp/nagano/> >から新しいヤギたちが導入されました。彼らは「牛人」と書かれたトラックに乗って子牛とともに畜舎に到着し、現在、4頭一緒のペンで生活しています。彼らは今年の春生まれたオス(去勢してますが)で、まだ小さくかわいらしいのですが、くるとカールした「おしゃれ前髪」



敵な名前ないんでしょか(笑)。

がかわいさを倍増させています。名前をどうしようかと考えていましたが、いつの間にやらポン・カン・ちい・アンカンになってました。…もっと素敵な名前ないんでしょか(笑)。

ちなみにポンちゃんは外国人顔のクールな感じで、カンちゃんは既に42kgもある一番大きな子です。ちいちゃんは“うるうるおめめ”が大人気、一番の美男子です。アンカンちゃんは生まれたのが他の子より3週間遅いので、一番小さく26kgしかありません。頑張ってたくさん食べて、早くみんなに追いついてほしいものです。



頭数が増えたので、飼育当番の仕事も増え、皆さんにご負担をおかけしますが、この可愛さに免じてお許しを…ご協力よろしくお祈いしますm(_)_m。
(山羊係)

四明会主催ソフトボール大会

「ねえ、おじいちゃん。今度は四明会ソフトボールのお話をしてよ。」
『四明会ソフトか…わかった、いいじゃろ。話してやるわい。あれは、2007年の10月の事じゃった。農学部全体から強豪チームが集まり、トーナメントを行うという一大ソフトボールイベントが行われたんじゃ。』
「もちろん、おじいちゃん達のチームが優勝したんでしょ!? やっぱすげえや、おじいちゃん!!」
『…まあ、待て…。まず一回戦じゃが、この試合ではゼミの影響で畜資メンバーが全員遅刻していったんじゃ。でも、生殖の人達が打ちまくってなあ…南先生にいたっては2打席連続ホームランなんて具合で、正直ボコボコじゃ。向こうとこっちであまりに違うベンチサイドの盛り上がりで少し哀愁を覚えたぞい。』
「それで、そのまま勝ち上がって優勝なんだよね! ?」
『…まあ、待て…。それで2回戦じゃ。畜資で

は、わざわざゼミのスケジュールを変更してまで、この試合に臨んだんじゃ。今度の相手は強くてなあ。初回で打たれまくって早くも6点も取られてしまった。その裏にわたしのメガネッシュチームも反撃して、すぐ追い付いたんじゃが、また向こうが突き放すという連続でなあ…』
「で、最後は、おじいちゃんのホームランでサヨナラ勝ちと♪」
『いや…負けた…』
「え??? 今、何て言ったの??」
『…負けました…』
「ま、負けたの?? ?」
『…うん…』
「うわああん(>_<)そんなおじいちゃん嫌だー!!」
「ま、待てくれ、タカシ!」
と、いう夢を見ました。結局、我が応用生物専攻ソフトボールチーム・メガネッシュは四明会ソフトボール大会2回戦敗退に終わりました。無念。(達)



色鮮やかな七変化(ランタナ)。でも山羊にとっては毒草です。

目次:

～広岡先生の随筆⑥～ 2
研究を行う理由

ワインと山羊チーズの会 3

熊谷先生宅訪問記 3

食欲の秋♪大行進 3

学会デビューしました 4

オランダ通信① 4
～日本との違い編～

お知らせ 5

まだ夏の記憶も薄れていないのに、季節はものすごい勢いで変化して、セーターが手放せなくなってしまいました。お天気のいい日は、山羊たちは外に出て日向ぼっこをしています。窓の外に見える木々の葉もあわてて衣替えをしたせいか、緑色を残したままずいぶん散ってしまいました。イチヨウ並木の下を通ると、実が落ちて腐った独特の臭いがしています。網で炒った熱々の銀杏と熱燗がたまらなく恋しくなってきました…

好評連載 広岡先生の随筆

⑥研究を行う理由



なぜ研究をするのかという問いに対して、楽しいから研究をすると答える研究者は多いだろう。特に、若い人ほどその傾向は強いように思われる。しかし私の場合、研究は楽しいですかと問われれば「はい」と答えるが、楽しいから研究をするのですかと問われれば、答えは「いいえ」である。この問答は一見、論理矛盾しているように見えるが、何度考えてもこの問答になってしまう。



研究者とスポーツの世界のアスリートとはよく似ている。アスリートにスポーツは楽しいですかと問えば、多くのアスリートは「はい」と答えるであろうが、楽しいからスポーツをするのですかと問えば、おそらく一流のアスリートほど「いいえ」と答えるのではないだろうか。一流のアスリートにとって、スポーツは楽しいからやっていると言うよりは、自分の限界と記録への挑戦が大きなウェイトを占めていると考えられる。多くのアスリートは、その挑戦のために日々苦しい練習に励み、自分の限界を越えて、記録を塗り替えた時にスポーツをやっていたよかった、スポーツは楽しいと真に実感するのではないだろうか。

研究者にとっても、研究をする動機の一つとして、自分の限界への挑戦と記録への挑戦がある。アスリートと研究者の違いは、自分の限界がアスリートでは体力の限界であるのに対して、研究者では知力の限界であるという点である。体力と知力の相違はあるにしろ、自分への挑戦と言う点に関しては同じである。また研究者の場合、記録と言うのは雑誌への掲載である。研究者の世界では、昔から暗黙に雑誌のレベルの違いが存在していたが、最近ではそれぞれの雑誌にインパクトファクターやサイテーションインデックスなどのその雑誌のレベルを表す指標が付けられており、その高さを目安に雑誌の価値が決まっている。したがって、多くの研究者は、自分の研究成果を論文にまとめ、より高いレベルの雑誌に掲載されることを目標に日々研究に励んでいる。掲載された雑誌のレベルが高ければ高いほど、その喜びは大きくなる。アスリートにとっては、オリンピックやワールドカップが頂点であるのと同様に、研究者の世界ではScienceやNatureが頂点である。個々の研究者は、それぞれの力量に合わせて、それぞれの目標の雑誌に掲載されるのを目標に研究に励んでいる。雑誌に掲載されれば、その論文と著者名はその雑誌の中に永遠に残ることになる。

私は、高校時代から将来は研究者になりたいと考えていた。私はそのころから、人間の使命は未来になんらかのものを残すことだと考えていた。研究者になれば、その研究成果を論文の形で将来に残すことができ、また、人付き合いが苦手な私には研究者が最も適していると思えた。よく、30年後に読んでもらえる論文などめったにないと言われるが、それでも自分の研究が後世まで残る点には魅力があった。それゆえ、最近にいたるまで、私はよりハードルの高い雑誌における論文の掲載をめざして研究を行ってきたと言える。

しかし、最近になって、その考え方が変わってきた。自分の限界への挑戦や雑誌への掲載を目標にするのではなく、純粹に世のため人のためになる研究がしたいと思うようになってきた。もちろん、よい雑誌に掲載されれば多くの人に読まれ、結果として人のため、世のためになる可能性が高まるのであるが、雑誌に掲載されることが目標ではなく、むしろ世の中に役に立つことでありたいと強く望むようになってきた。最近になってやっと心の余裕ができたからこのように考えるようになってきたのかもしれない。

研究者の側から見た場合、研究は、自分の興味のある研究、科学的に重要な研究、世のためになる研究の3つが考えられる。これら3つの要素をすべて含む研究、すなわち、科学的に重要で、しかも興味を持って、かつ結果としてその成果が世のため人のためになる研究を行なうのがベストである。しかし、そのような研究テーマを見つけるのが難しく、少なくとも一つでも満たしている研究を行なっているのが普通である。しかし、自分の興味のみで研究を行なう若い研究者を多く見かけるが、このような研究者は楽しいから研究を行なっているのかもしれないが、結果的にまったく成果が得られず、若い貴重な才能を潰すことになりやすい。若い研究者の興味と実際の科学における重要性は乖離していることが多く、結局若い時の貴重な時間を徒労に終えることになってしまう。その意味で、科学的に重要と思われる研究を行なうのが最も無難である。その研究が成功し、よい雑誌に掲載され、評価が得られれば、興味は後からでも出てくるものである。また、役に立つというのはあくまでも結果であり、その意味でも若い人は科学的に重要な研究を行なうのがベストな選択と言える。

今思うことであるが、若いうちは、研究の動機は自己に関わるものであってもよいのではないかと考えている。学生たちの間で、なぜ研究を行なうのか、その研究は何の意味があるのかという議論をよく耳にするが、よい雑誌に掲載されるということは紛れもなく科学的に重要であることを意味し、科学的に評価を受けたと判断できるので、研究の動機は何であってもよいのではないかとと思われる。ある程度の実績を積み、心の余裕ができた後にも、研究をする動機については振り返ればそれでよいのではないだろうか。ちなみに、私の場合、大学で教育をするようになり、最近では学生たちに私の知識と研究のDNAを伝えることが私の使命と考えている。そのことは、当初私が考えていた将来に何かを残すという目標を十分満たしている。そして、結果的に私と学生たちの研究が世のため人のためになれば、それにまさる幸せはない。 広岡博之

ワインと山羊チーズの会

10月4日、多摩動物園へ調査に旅立つ田島君を囲んでの壮行会を兼ねて『ワインと山羊チーズの会』を開催しました。(元気ですか〜?)今回味わった山羊チーズは、茨城県水戸市『森のシェブル館』<<http://www.chevre-kan.com/chevre-site/main.html>>*さんのフロマージュフレ、サントモール、シェブル(山羊チーズ3本立て!)と新潟県胎内市(たいない)の特産品、胎内サントモール<http://www.tainaibeer.com/shop_milk/saintemaure.html>でした。赤白ワインもそろえて素敵な会を…企画していたのですが、そこはさすがの畜産資源。ビールに焼き魚、焼きうどんも加わって途中からはすっかり『いつもの飲み会』でした(苦笑)。山羊チーズへのみんなの評価はいろいろで、「山羊が充満してる」と感じる人もいれば、「ぜんぜん臭わない」という人まで。日本国内でもこれだけいろいろな種類のタイプの山羊チーズが、いろいろな地域で生産されているというのは、嬉しいですね。同じサントモール**でも、メーカーによってずいぶん味わいが違うんだなぁと感じました。実はこの『ワインと山羊チーズの会』、今回が2度目の開催でした。またどこかで山羊チーズに出会ったら第3弾を開催しましょう!*各サイトから注文できます。商品の説明も掲載されていますので興味のある方はどうぞ。**サントモールは山羊チーズの中でも代表的なチーズで、円錐形で回りに黒い灰(カビじゃありません!)をまぶしたチーズです。(ようこ)



熊谷先生宅訪問記

～研究室の皆様～

新居に移ってから、はや1年が過ぎました。本当は家族が合流した4月に開くほうがよかったのですが、バタバタしていて機会を失い、気が付けば10月です。本格的に寒くなる前に、自宅でバーベキューをしますのので、皆様是非、奮って参加してください。ご家族、彼女・彼氏連れもOK。参加の有無を返信願います。

というお誘いを受けて、10月20日(土)お宅にお邪魔しました。広岡先生はじめ研究室のメンバーと付属牧場から北川先生夫妻も合流。朝締めの鶏、産取り肥育牛、魚介のBBQをご馳走になりました。差し入れも盛りだくさんで、中でも北川婦人からは、丹波の栗ご飯に丹波産黒豆の枝豆、山羊チーズ入りケーキなどなど(もちろんビールも)…どれもみんな美味しかったですね♪熊谷先生の奥様やご息子との会話も弾み、お昼から夕方まで楽しい一日でした。

学生実験

10月3～4日に今年度3回目の学生実験が行われました。今回からは、3年生の拘束時間が短くなって負担も少し減ったようでした。2日目の放牧見学では、ドラとウラドラがみんなにいいところを見せようと(?)行動観察中ずっと頭突きをしていたとか…ドラちゃん、ウラドラちゃん、何か間違っていないですか(^^;)



悪い子はいねえか～?

椎野君から『面皮本燻製チラガーくん(ピリ辛風)』の差し入れいただきました!冷蔵庫を開けるたびに目が合います。早く食べる機会を作りましょう!というか、これってどうやって食べたらいんでしょう?ご存知の方は編集部までご連絡下さい。

食欲の秋♪大行進

～研究室の秋の味覚①～『もどり鯉ヅケのダイショ山かけ丼』

実験で扱うダイショの第1期収穫があったので、とろろを作って見ました。すりおろすと自然薯のような強い粘りがあり、灰汁も強く変色しましたが、だし汁で伸ばしたら食べやすく美味くなりました。北川婦人のアドバイス通り、大根おろしで伸ばすとさっぱりした味わいになって沢山食べられました。あ～満腹♪(10月22日)



～研究室の秋の味覚②～『栗ご飯』と『零余子(むかご)ご飯』

付属牧場の北川先生夫妻から芝栗とむかごを送っていただいたので、『栗ご飯』(10月24日)と『むかごご飯』(10月30日)を炊きました。芝栗は味が凝縮されていて甘くて美味しかったですね。むかごご飯は初めて食べた人も多かったようですが秋を感じる独特の味でした。ちなみにお米は竹内さんがおうちから差し入れてくれました。ありがとうございました☆



学会デビューしました。

畜産資源M1の椎野と竹内が、ついに学会デビューいたしました。その学会とは、「第45回肉用牛研究会」、時は2007年10月25-26日、場所は島根県大田市。そう、今、日本でトップ20に入るアツい場所と一部から言われているあの大田市。最新の世界遺産『石見銀山』のある町です。UNESCO景気に沸きに沸いている・・・ようでもありませんでしたが、駅や商店や歩道橋には、所狭しと「世界遺産」の旗が見え、道行く人々の顔にも幾分活気があるように見えました。運よく、僕らも『石見銀山』に向かう機会を得ました。それは、石見銀山の麓で里山放牧をされている畜産農家を見学するというもの。この農家は、乳牛20頭を舎飼、肉牛20頭を半放牧、



半舎飼しており、パジェロミニで草原や山中を疾走しつつ放牧地を見学させていただきました。この時は、実際に放牧していなかったのですが、木々の合間をぬって雄大な牛がのっそり歩いている姿を想像しただけで思わず、ヨダレが・・・いや、感嘆の声が出る思いでした。また、山頂から見える大田市のシンボル三瓶山と、脇に何重にも連なる峰が東の空に溶け込み、日本神話の国・出雲を神々しく演出していました。一般的な舎飼



や、北海道の草地における放牧とはまたイメージが全く違う山間地帯における放牧は、国土の7割を山が占める日本に対して新たな可能性を感じました。

さて、肝心の学会です。25日のフォーラムは、『中国地域における黒毛和種繁殖雌牛の少頭数放牧技術開発の現状と展開方向』という大変興味深い演題だったのですが、椎野と竹内は、当日の朝、夜行バスで島根に到着し、農家を何軒か周った後でこのフォーラムに出席したために、少々お疲れ&おねむモード。それでも、ちゃんと知識を得て、自らの血肉にできたはずと信じています。26日の発表では、畜資メンバーで、まず田端さんが先陣を切りました。堂々とした立ち振る舞いで発表をこなし、核心をついた質問にも的確に答弁していました。そして長命さん。学会ヲタと一部で呼ばれるほど、近頃は学会三昧の日々を送っているだけあって、発表時間の正確さはこの日の発表者で一番でした。そして竹内さんの発表ですが、発表前の不安とは裏腹に、大人数を前にしても動じずに発表を終え、難しい質問に少し詰まりながらも何とか返答し、無事学会デビューを果たしました。そしてトリの椎野。事前練習では、相当スピーディーにこなして時間ギリギリだったのが、本番では、ゆっくり喋って時間が相当余るという不思議な現象が。。。。また、質疑応答では、専門的で厳しい質問の連続に困惑し、答えた後に何故か「すみません・・・」を連発する始末。もっと勉強と発表練習をして臨機応変に対応できるようにしなければなりませんね。ちょっとほろ苦いけども、ドキドキワクワク銀銀だった学会デビューでした。



(椎野特派員)

オランダ通信①～日本との違い編～

オランダに来てまず思ったことは日本との天候の違いです。オランダは日本に比べて気温が少し低いのですが、冬は乾燥していないので思ったより寒く感じないですね。ただ、オランダに到着した10月でもコートはかかせないですが・・・。あと、もうひとつ最初に気になったのが、オランダ人の背の高さ。みんな身長がすごく高い！世界一背の高い国らしいです(間違っていたらすいません)。ぼくは日本では少し身長が高いほうですが、オランダではチビの部類です。しかし、意外だったのがオランダの学生とランチを食べていると彼らはそんなに大食いでなく、むしろ僕ら日本人の昼ごはんよりかなり少ない量でした。彼らにおなかがあかないのと聞くと、「夜にいっぱい食べるから大丈夫」とのことでした。それにしても、体の割りに食べる量はかなり少なく、どうやったらそんなに大きくなるのか不思議です。やっぱり遺伝ですかね。



あと、オランダ人は英語がうまいという話はいく前から聞いていたのですが、本当にうまいですね。学生はもちろんのこと、お店の店員に英語で話しかけても全く不都合はありません。でも、常に英語でしゃべっているわけではないのです。普段はオランダ人同士だとほぼ100%オランダ語でしゃべっています。研究室でもコーヒータイトに学生が集まるとほとんどオランダ語での会話になります。おかげで僕には何を話しているのかチンプンカンプンですが・・・(ただ、英語で話しかけるとちゃんと英語で答えてくれますよ)。オランダでは、テレビで放映されるアメリカの映画などが字幕なしで放映されているので、小さいころから英語に触れる機会がとても多いのだそうです。実際に英語を習うのは小学校の高学年かららしいのですが、それまでには英語の実力はかなりのレベルに達しているみたいです。



(記者N)

Department of Animal Husbandry
Resources, Kyoto University,
Faculty of Agriculture
Oiwakekyo, Kitashirakawa,
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

電話 075(753)6365

FAX 075(753)6365

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で
成り立っています。形式・文字数は問いません。
また、読者の方々からのご意見やお問い合わせ
も受付中です。下記のアドレスまで送信して
ください。

E-mail: yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp



2007年 11月の飼育当番表

山羊が増えたので、今月から
三人体制になりました。

日	月	火	水	木	金	土
10/28 大石・塚原	29	30	31	1 菊原・塚原・椎野 体重測定・予防注射	2	3
4	5	6	7	8 長命・レニン・児嶋 体重測定	9	10
11	12	13	14	15 大石先生・金島・竹内 体重測定・予防注射	16	17
18	19	20 学生実験	21 学生実験	22 熊谷先生・田端・児嶋 体重測定	23	24
25	26	27	28	29 熊谷先生・金島・竹内 体重測定・(予防注射)	30	12/1

お知らせ

今月のゼミ

今月のゼミは、
11月 1日(木) 椎野(文献紹介)・金島(文献紹介) ← 済み
11月 8日(木) 菊原(文献紹介)・竹内(文献紹介)
11月 15日(木) 田端
11月 22日(木) 児嶋(卒論中間検討会)・金島(文献紹介)
11月 29日(木) レニン
の予定です。時間は10:30~12:00、教室はE-503です。
変更等の案内にご注意下さい。

ゼミ係

お誕生日会

今月のお誕生日さんは、熊谷先生(15日)、菊原君(29日)、塚原さん
(23日) 椎野君(1日)です。諸事情で9月と10月のお誕生日会が延期され
ましたので合同開催にします。ということで、今月はお祝いされる人が、お誕
生日会最多の6名です。日程は現在調整中です。お楽しみに！ イベント係

畜魂祭

11月9日(金) 12:00-12:50、動物舎の畜魂碑前で畜魂祭が行われます。
実験に貢献した動物たちへお焼香する機会です。(雨天順延)

研究室メンバーの動向

4年生の田島君は、11月末までの予定で多摩動物公園へオランウータンの調査
に出掛けています。M2の西尾君は、10月25日から2ヶ月間の予定でオランダ
のWageningen大学へ短期留学をしています。オランダからの情報も寄せら
れています。10月29日から11月7日まで熊谷先生と田端さん(D2)がネパー
ルへ調査出張中です。

編集後記 先日、トイレ掃除のおばさんから、こんな話を聞きました。最近トイレが(男女とも)ひどく汚れているそうです。吐き戻したも
のや便が便器の外にそのまま残っていたり、洗面所に吐き戻したものが詰まったり...仕事だと思って我慢はしているけれど、
時々掃除をしながら声を上げて泣きたくなると。みんなで共有するものは、誰が汚したかわからないと思って放置してしまいがちですが、
お掃除をしてくれている人の気持ちを考えてできるだけきれいに使いたいものですね。(ようこ)